

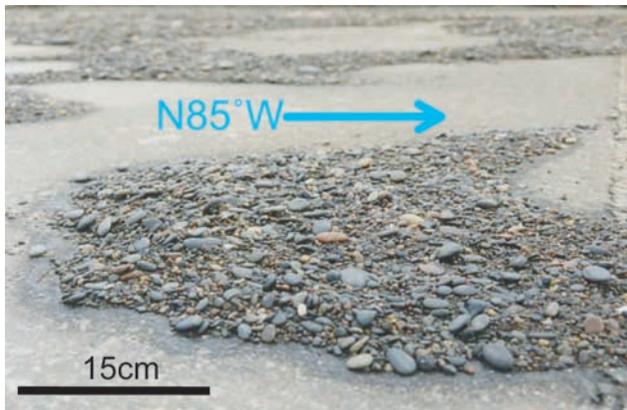
平成15年十勝沖地震津波によって生じた港内の土砂移動現象

＜重野 聖之・七山 太・添田 雄二・石井 正之＞

平成15年9月26日の午前4時50分、北海道十勝沖で起きたM8.0の地震によって津波が発生した。我々は津波発生の翌日から、被害の大きかった豊頃町大津港や広尾町十勝港において緊急現地調査を行った。今回の津波の遡上高は約2～4mと総じて低く、特に外洋に面した海岸地域では、大規模な土砂移動が発生しなかったことが確認された。ただし大津港や十勝港の港内においては、戻り流れによって、土砂が海側に輸送されることによって生じたデューンやカレントリップル等のベッドフォームが多数確認された。これらの堆積構造を詳細に観察することによって、流れの方向と速さをある程度見積もることができた(本文p.10-18頁参照)。



1-2. 9月26日に撮影された大津港における津波浸水状況(豊頃町提供)。



3. 戻り流れによって形成された3Dグラベルデューン(大津港)。以下の写真において、青い矢印は流れの向きと方位を示す。

4. 戻り流れによって形成されたカレントクレスセントマーク(大津港)。



5. 戻り流れによって形成されたロープ状砂体(大津港)。



- 6. (左上)9月26日に撮影された十勝港における津波浸水状況 (広尾海上保安所提供).
- 7. (左下) 津波浸水後の十勝港内の状況. コンテナ他, 多数のゴミが浮遊している.
- 8. (右) 噴砂と戻り流れによる流砂現象の重複 (十勝港).



- 9. 戻り流れによって形成されたカレントリップルとそれを覆う噴砂ローブ (十勝港).

- 10. 戻り流れによって生じた大規模カレントクレスセントマーク. 十勝港では強い戻り流れによって, 十数台の車が海中に引き込まれた.